## Smart Made Housing.で「子育てシェアプラン」公開！

### 【1,000 人以上の共働き子育て世帯に聞いた】「名もなき育児」を家族でシェアする住まいとは？

大和ハウス工業株式会社（本社：大阪市、社長：大友浩嗣）は、全国の 20～59 歳の共働き子育て世帯を対象に「家事・育児に関する調査」を実施しました。

前回は、夫婦で育児をシェアしている家庭でも、学校や園への持ち物の準備、連絡帳やプリントの確認、予定管理など、日常的に発生する細かな「名もなき育児」は妻に偏る傾向があることを紹介しました。また、負担軽減の理想として「家族でシェアしたい」という意向が高い一方で、十分な負担軽減につながっていない実態も明らかになりました。

今回は、こうした「家族でシェアしたい」という理想と現実のギャップを踏まえ、共働き子育て世帯が実際に取り入れている子育てをサポートする住まいの提案に着目しました。空間や設備について、導入実態だけでなく、日常的に利用されているか、家事・育児の負担軽減に役立っているか、さらに他の子育て世帯にもすすめたいかを調査し、実際の暮らしの中で評価されている住まいの提案を明らかにしました。

今回の調査結果を受け、当社の規格住宅・セミオーダー住宅「Smart Made Housing.」では、家族で子育てをシェアしやすい「子育てシェアプラン」を提案します。

※前回公表した調査結果はこちら
育児シェアが広がっても、妻に偏る「名もなき育児」 | 大和ハウス工業株式会社のプレスリリース

**主なポイント**
・子育て世帯では、子どもを見守りやすく、家族が自然に関われる空間・設備が多く取り入れられている
・子育て世帯が「おすすめしたい」ものは、オープンキッチン、リビング階段、学習スペース、ランドリールームなど
・評価されているのは、家事・育児の負担を減らしながら、普段の暮らしの中で家族が無理なく関われる住まい
・Smart Made Housing.で、家族で子育てをシェアしやすい「子育てシェアプラン」を提案

### 「家族でシェアしたい」―共働き子育て世帯の理想と現実

共働き子育て世帯では、子どもの見守りや遊びなど、子どもと直接関わる育児は夫婦間で

シェアが進んでいます。一方で、学校や園への持ち物の名前書き、連絡帳やプリントの確認、予定管理など、日常的に発生する管理・調整型の「名もなき育児」は、妻に偏る傾向が見られました。

また、家事・育児の負担軽減については、外部サービスなどに任せるだけでなく、「家族でシェアしたい」というニーズがある一方、実際には十分な負担軽減につながっていないものもあります。

では、こうした毎日の家事・育児の負担を少しでも軽くするために、実際の子育て世帯では、住まいにどのような空間や設備を取り入れているのでしょうか。

## 共働き子育て世帯の住まいから見えた、子育てを支える空間・設備

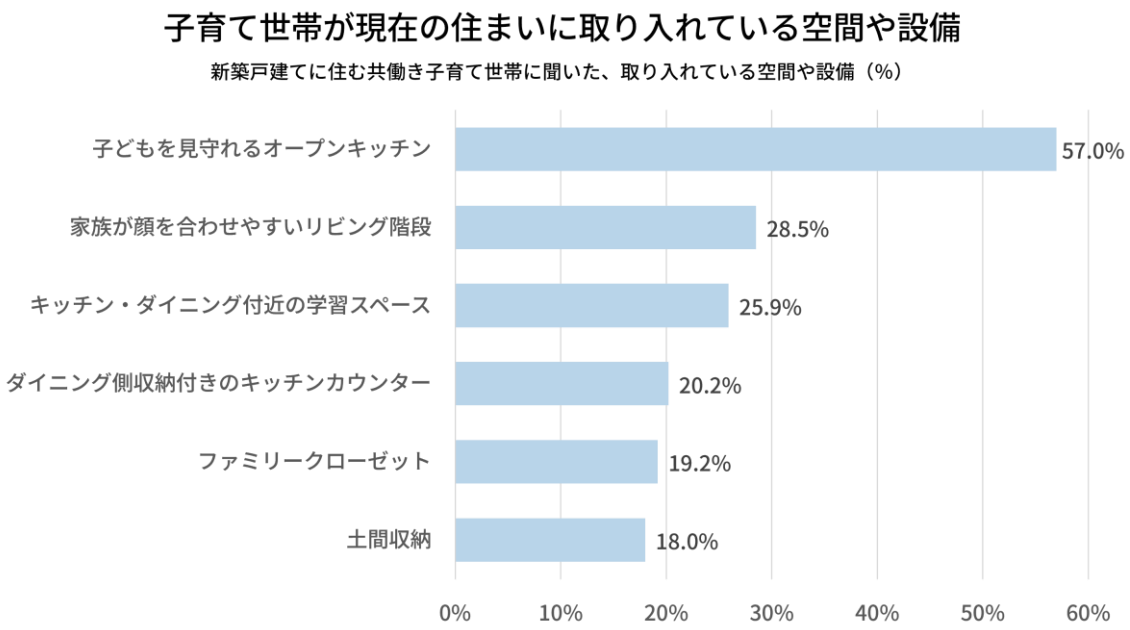
### 実際に取り入れている空間・設備は？

新築戸建てに住む共働き子育て世帯に、現在の住まいに取り入れられている空間や設備について聞いたところ、「子どもを見守れるオープンキッチン」が 57.0％で最も多く、次いで「家族が顔を合わせやすいリビング階段」28.5％、「キッチン・ダイニング付近の学習スペース」25.9％となりました。また、「ダイニング側収納付きのキッチンカウンター」20.2％、「ファミリークローゼット」19.2％、「土間収納」18.0％なども取り入れられています。

上位を見ると、オープンキッチンやリビング階段、学習スペースなど、家事をしながら子どもの様子を見たり、家族が自然に顔を合わせたりできる空間が多く取り入れられています。一方で、キッチンカウンター収納やファミリークローゼット、土間収納など、家族のモノをまとめ、片付けやすくするための収納も上位に挙がりました。

子育て世帯では、子どものための専用スペースだけではなく、普段の家事や生活の中で子どもと関わりやすくすることや、家族みんなが使うモノを管理しやすくすることが、住まいに取り入れられていることが分かります。

Confidential




**実際に取り入れた人が「おすすめしたい」ものは？**

実際に取り入れている空間や設備の中から、これから住まいの購入を検討する人に最もおすすめしたいものを聞いたところ、「子どもを見守れるオープンキッチン」が 29.3%で 1 位となりました。そのほか、「リビング階段」「学習スペース」「ランドリールーム」なども上位に挙がっています。

ここで上位に挙がったのは、子どものためだけにつくられた専用の空間・設備ではありません。日々の家事の中で子どもと関わりやすくするものや、家族が自然に顔を合わせるきっかけをつくるもの、毎日の家事を効率化するものなど、普段の暮らしそのものを支える空間・設備が選ばれています。

第１位

子どもを見守れる
オープンキッチン



第２位

キッチン・ダイニング付近の
学習スペース



第３位

家族が顔を合わせやすい
リビング階段



第４位

効率的に洗濯家事ができる
ランドリースペース



第５位

荷受の手間を減らす
宅配ボックス



**「おすすめしたい」理由から見えてきたこと**

アンケートでは、子育て中の暮らしを支えるさまざまな空間や設備について、「おすすめしたい」と感じる理由も聞きました。

子どもを見守れるオープンキッチン



遊ばせながらご飯を作っているとき、危ない遊びをしていないか、
喧嘩になっていないかを確認できる。（30 代女性）

料理や片付けをしながらでも子どもの様子を確認でき、必要なときにはすぐに声をかけられることが評価されています。家事を中断することなく、子どもと自然に関われることが、子育て中の暮らしやすさにつながっているようです。

キッチン・ダイニング付近の学習スペース



何かあったらすぐに声がけ出来る、質問できる。
家事をしながら子どもの学習を見守れる。（40 代男性）

子どもが宿題や勉強をしている様子を見守りながら、分からないことがあればすぐにサポートできる点が評価されています。家事の時間と子どもに向き合う時間を分けるのではなく、同じ空間で無理なく両立できることが支持されています。

家族が顔を合わせやすいリビング階段



子どもが思春期になった時に、
少しでも顔を見ることが大切だと思ったので。（40 代女性）

外出や帰宅の際にリビングを通ることで、家族が自然と顔を合わせやすくなります。普段の暮らしの中で会話やコミュニケーションが生まれやすいことが評価されています。

効率的に洗濯家事ができるランドリースペース



洗濯した衣服を干すところから畳むところまで一括で作業が可能になり、
時間の節約になった。（30 代男性）

「洗う・干す・乾かす・畳む」といった洗濯の一連の作業を一か所で行いやすくすることで、家の中の移動や作業の手間を減らせることが評価されています。毎日の家事にかかる時間や負担を減らしやすいことが、子育て世帯から支持される理由の一つとなっています。

荷受けの手間を減らす宅配ボックス



仕事やお迎えなどの時間を気にせず荷物を受け取れる。
時間管理のストレスがなくなる。（30 代女性）

子どもの送迎や買い物、仕事などで家を空けていても荷物を受け取れるため、配達時間に合わせて在宅したり、再配達を依頼したりする手間を減らせます。時間や行動を荷物の受け取りに合わせなくてよいことが、忙しい子育て世帯の暮らしやすさにつながっています。

こうした声を見ると、子育て世帯から評価されている住まいには、家事・育児の手間や時間を減らすことと、家族が無理なく関われることという共通点が見えてきます。

家事をしながら子どもを見守る、家族が自然に顔を合わせる、日々の家事にかかる手間を減らす。こうした一つひとつの工夫によって、誰か一人に家事や育児が集中するのではなく、家族みんなが自然に関わりやすい環境をつくることが、「子育てをシェアしやすい住まい」につながると考えられます。

### 家族で育児をシェアするために、住まいにできること

今回の調査では、家事の手間や時間を減らせることに加え、家事をしながら子どもを見守れることや、家族が自然に顔を合わせられることなど、普段の暮らしの中で家族が無理なく関われる空間や設備が評価されていることが分かりました。

また、前回公表した調査では、予定管理や持ち物の準備など、日常的に発生する管理・調整型の「名もなき育児」が妻に偏る傾向も明らかになっています。

こうした結果から当社では、家族で育児をシェアするためには、家事・育児を効率化するだけでなく、家族みんなが必要な情報やモノを把握し、それぞれが自然に動ける環境をつくることが大切だと考えています。

そこで、大和ハウスが考える子育て住宅では、次の 4 つの視点を大切にします。

#### 1. 情報が見える　―必要な情報を、みんなで共有できる

学校・園からのお便りや子どもの予定、家族のスケジュールなどを、家族みんなが確認しやすい場所に集約。誰か一人だけが情報を把握し、家族に伝えるのではなく、それぞれが必要な情報を確認しやすい環境をつくります。

#### 2. モノの場所がわかる　―どこに何があるか、みんながわかる

学校や園の持ち物、衣類、日用品など、家族みんなが必要なモノの場所を把握しやすい収納に。モノを探したり、誰かに場所を聞いたりする時間を減らし、それぞれが必要なものを取り出しやすい環境をつくります。

#### 3. 自分でできる　―準備や片付けを、自分でできる

子どもの手が届きやすい場所や、使う場所に合わせて収納を設けるなど、子ども自身で準備や片付けをしやすい環境をつくります。親が一つひとつ準備・片付けをするのではなく、子ども自身が日々の生活に関われるようにします。

Confidential

### 4. みんなが動きやすい　―自然に家事・育児に関われる

家事をしながら子どもの様子を見守れる空間や、家族みんなが使いやすい動線など、家族の誰か一人に家事・育児が集中しにくい間取りに。誰かに頼まれて動くのではなく、それぞれが自然に家事・育児に関わりやすい環境をつくります。

この 4 つに共通するのは、「誰か一人が把握する、探す、準備する、動く」状態を、住まいから変えていくという考え方です。「家族でシェアしたい」と思っていても、一人しか予定を知らない、一人しかモノの場所が分からない、親が準備しなければ生活が回らない環境では、家事・育児は特定の人に偏りやすくなります。

情報やモノの場所を家族で共有し、家族のみんなが動きやすく、自然に家事・育児に関われる環境をつくる。大和ハウスでは、こうした考え方を住まいづくりに取り入れています。

### Smart Made Housing.で「子育てシェアプラン」を提案

大和ハウスの規格住宅・セミオーダー住宅「Smart Made Housing.」では、家族構成やさまざまな暮らし方に対応する間取りを拡充し、選べる間取りがこのたび 4,000 プランを超えました。

「Smart Made Housing.」は、自由設計と規格住宅の特長を生かしながら、プロが設計した多彩な間取りや仕様の中から、暮らしに合った住まいを選んでつくる住まいのかたちです。間取りや外装・内装、住宅設備を選びやすく、セミオーダー住宅ではベースとなる間取りをもとに、家族構成やライフスタイルに合わせたカスタマイズも可能です。

今回、「情報が見える」「モノの場所がわかる」「自分でできる」「みんなが動きやすい」という 4 つの視点から、家族で子育てをシェアしやすい条件を整理し、それらを満たすプランを「子育てシェアプラン」として提案します。

子育ての負担や困りごとは、家族構成や子どもの年齢、日々の暮らし方によって異なります。そのため「子育てシェアプラン」では、一つの間取りを正解とするのではなく、それぞれの家族が大切にしたいことや暮らし方に合わせて、自分たちに合ったプランを選べるようにしています。

例えば、家族の予定や学校・園からのお便りを共有しやすい場所、子ども自身が準備や片付けをしやすい収納、家事をしながら子どもを見守りやすい間取りなど、「名もなき育児」の負担軽減や、家族が自然に子育てに関わりやすくなる工夫を持つプランを探しやすくします。




**「子育てシェアプラン」の一例**

家族みんなが家事や子育てに関わりやすく、日々の負担をシェアしやすい工夫を取り入れたプランです。

家族構成や暮らし方に合わせて、さまざまなプランから選ぶことができます。

また、今回の発表にあわせて、「名もなき育児」をテーマとした WEB サイトも開設します。 サイトでは、「名もなき育児」の実態や調査結果とともに、家族で子育てをシェアしやすくする住まいの工夫や、「子育てシェアプラン」のモデルプランなどを紹介します。
▶『名もなき育児』WEB サイトはこちら

今後も当社は、共働き子育て世帯の声や暮らしの実態に向き合いながら、「家族で子育てをシェアしたい」という思いに住まいから応え、家族の誰か一人に負担を集中させることなく、家族みんなが自然に子育てに関われる住まいづくりを提案していきます。

関連リンク
▶「名もなき育児」WEB サイト｜家族で子育てをシェアしやすい住まいをご紹介
▶My 間取りサーチ｜4,000 以上の豊富な間取りから子育てシェアプランを検索！
検索したプランはすぐに VR で確認できます。
▶Smart Made Housing. 公式サイト｜商品・特長をご紹介

【調査概要】
調査手法：WEB アンケート
調査対象：全国 20～59 歳の男女
・共働きの子育て世帯(核家族)
・育児分担について男性負担が 3 割以上と回答
サンプル数：1,048 サンプル
調査期間：2026 年 6 月 12 日～2026 年 6 月 17 日